

アメリカ&フィリピン・サマーキャンプ受付開始!

その知らせをどれほど待ち望んでいたことでしょう！

スラムに住む子どもたちにとって、キャンプに参加できるということがどれほど大きな喜びか、おそらく私たちにはわかりません。昨年のキャンプの準備でフィリピンスタッフが体験した話をご紹介します。



昨年のキャンプの準備を始めてすぐのことでした。キャンプ担当のチームが編成され、キャンプの準備も万端でした。スポンサーの皆さんからも、ご自分のサポートしている子どもたちがキャンプに参加して楽しめるようにと、代金の支払いも始まっていました。

スポンサーからの申し込みがあった子どもたちが、正式に参加できるように、ご両親の許可をもらいに行なった時のことです。

プリンスの妹のリアンヌを参加させていいか母親に尋ねた時、お兄さんのプリンスがそこに居合わせました。母親は「もちろん」と言って許可したので、父親にも書類に署名をしてもらいました。

すると、横にいたプリンスが「ぼくは？」と尋ねました。私たちは彼に、「参加できるようにお祈りしようね」と言いました。

翌週、私たちが青年の聖書研究をしていた時、彼がまた「ぼくはキャンプに行ける？」と訊いてきました。しかし、彼の名前はまだリストにありませんでしたので、私たちは再び彼に祈り続けようと励ました。

翌週、必要事項の記入をお願いしていたリアンヌの参加書類を受け取りに行なった時、彼は再び「ぼくはキャンプに行けそう？」と尋ねました。しかし、彼の名前はまだリストにありませんでした。それで、再び彼に祈り続けるように伝えました。

最終的なキャンプ参加者リストができた時、プリンスの名前がそこに追加されました！ 彼のスポンサーが、プリンスがサマーキャンプに参加できるよう申し込みをしてくれたのです。私たちは感謝と喜びで言葉もありませんでした。彼がどれほど真剣に祈り続けていたか知っていたので、彼の名前がリストにあるのを見つけた時、私たちの心は喜びでいっぱいになりました。それは、私たちにとっても祈りが答えられた瞬間でした。

その日、さっそく私たちは彼の両親の許可をもらうために家に行きました。私たちが封筒からその書類を取り出した時、彼もそこにいました。

「ぼく、キャンプに行けるの？」

「ええ、あなたのスポンサーがあなたに参加してほしいって！」

彼の顔がパッと輝いて、居合わせたみんなが笑顔になりました。彼はスキップしながらやってきて、許可書に母親がサインするのをそばに立って見ていました。

彼はキャンプがどんなに楽しいか知っていたので、どうしても行きたかったのです。しかし今、すべての楽しいキャンプの体験に加え、彼はこのキャンプが、まさに彼の祈りの答えであったことを思い出すことでしょう。

プリンスにとって昨年のキャンプは、開催される前から始まっていたのです。それは、彼が祈ったときに始まったのです。

皆様の貴い犠牲によるご支援と、背後でのお祈りに心から感謝します。

同封のお申込書を
ご覧の上
お申し込みください。
5月29日〆切

キャンプ受け付け開始！
〆切5月29日。詳細は申込書をご覧ください！

フィリピンの学用品支援！
〆切4月25日。まだ間に合います！

先月の申込書またはプレゼントリストをご覧ください

今月号の目次

- P2~3…インターンシップ体験談
- P4…セミナーのご案内
- P5…新年度の祈りの輪
- P6…重要なお知らせ／日本事務所連絡先など基本情報

メトロ・フィリピンの インターンシップ(研修)に参加して

2018年秋にフィリピンでインターンシップに参加されました高嶋千絵様からのレポート—その3



家庭訪問「縁の下の力持ち」

メトロは毎週金曜日に家庭訪問を行なっています。教会学校に来ている子どもたちの家庭を訪問していき、保護者との交わりをもち、信頼関係を深めていくのです。これを一番大切にしているのだとスタッフの方は話しておられました。

スタッフと研修生は、それぞれ担当エリアがあり、毎週同じ地域を訪問します。私の担当地域はグリーンビルディングというところでした。世界10大スラム街のひとつ、あのスマキンマウンテンにあります。衛生面では最悪の場所であるとのお墨付きでしたが、私はここが大好きで、今でも夢に見るほど神様の愛を体験した場所です。

私たちが着くと、子どもたちは全力で駆け寄って来て、体当たりしてきます。よじ登り、首を絞め、最後に押し倒す…彼らの愛情表現です。「千絵、今日はどこから行く?」と訪問先の家を案内してくれる子どもたちが、どこからともなく、たくさん集まって来て、私たちはいつも可愛い案内係に囲まれていました。家から家へ行く途中「道端教会学校だよー!」と大きな声で宣伝しながら、チラシを配ることも大切な働きでした。

ある日、10歳くらいの女の子が赤ちゃんを背負いながら、両手に四人の弟妹を連れて家に帰ろうとしていました。「大丈夫?」と私が声をかけると、彼女は驚いて立ち止まりました。彼女の足元は血だらけでした。何があったのかは言いません

でしたが、言いにくいことがあったのは確かで、私はその子の足にバンドエイドを貼り、手を置いて祈りました。彼女は照れ臭そうに「ありがとう!」と言って帰って行きました。その翌日の道端教会学校に、その女の子が来していました。そして「お祈りしてくれてありがとう、すっかり良くなった」と話してくれました。

しかし、その子の足にはまだ血がついていたので「まだ痛そうじゃない」と私が言うと、そばにいたその子の母親が言ったのです。

「この子が良くなったのは心。この子のために何かしてあげたくても、何もしてあげられなかったけど、祈ることはできるのね。



今度は私があなたのために祈るわ。」

家庭訪問ならではの恵みです。家庭訪問は、個人と個人のつながりを大切にする現れです。そういうえば、イエス様も家庭訪問をしていたなと思いつつ、神様は効率の良い方法ではなくて、地道に働くことを望んでおられるのかもしれませんと思いました。愛が

なければなんの意味もないことを心に留め、小さなことに大きな愛を込めて行いました。

メトロの家庭訪問は、働きとしては派手ではありません。でも、子どもたちとその家族との信頼関係をキリストの愛によって築き上げる、縁の下の力持ちです。



家庭訪問

「千絵、運転できるの?」「できないよ」「きやーこわい!」「本当に日本人?」「私の心臓には毛がはえてるんだよ」「え、見たい!」こんなことばかり話して、毎日幸せでした。

チラシくばり

家庭訪問の移動中に「教会学校やるから来てね」とチラシを配布。500枚くらいは、あっという間にになります。

里親制度 「私たちのスポンサーチャイルドは、しあわせ。スポンサーは、もっとしあわせ。」



里親からの クリスマスプレゼント

1万個ほどのプレゼント。全部メトロのバッグに入れて子どもたちの名前を書き入れます。



子どもから里親への クリスマスカード

自分も貧しいのに、スポンサーをするフィリピン人もたくさんいるのです。

「メトロの里親がつくかもしれない。そうしたら、また一緒に住めるかもしれない。私たちも、ほんとうに里親に感謝しているのよ。」

受け取るより与える方が幸い！ プレゼントや生活費を贈るだけでなく、とりなしの祈りもしっかり日々の祈りに加えていこうと思います。

次号へ続く (いよいよお別れの時を迎えます)

これを読みの大半の方は、里親でしょうか。私はメトロの研修生でしたが、里親でもあります。今回は研修に集中したかったので、自分のスポンサーチャイルドには会いに行きませんでしたが、里親制度の働きには、たくさん参加させていただきました。

みなさんにもクリスマスカードは届きましたか？ 私は毎年、楽しみにしていますが、なんと研修生は、そのクリスマスカードの仕分け、配送のお手伝いをすることができるのです。

「Japan」という字を見つけるたびに、「わたし？ わたし？」と心が踊りました。何万枚の中から自分へのカードを見つけることはできませんでしたが、友だちへのカードを見つけることができて、大興奮！ とても幸せでした。

他の国にくらべて日本人スポンサーの人数は多くありません。文化の違いやクリスチヤン人口が影響しているのかもしれません。だからこそ、すでにスポンサーになっている日本人のみなさんは大変貴重で、そして知ってもらいたいのです。私たちのスポンサーチャイルドは、現地スタッフと海外から集まって来る奉仕者の献身的な働きによって、守られ、支えられ、育まれています。ほんとうに感謝です。

クリスマスプレゼント、クリスマスディナーを用意し、分配し、運搬するのは想像を絶する作業です。腰や背中、足を痛める者、手の皮がむける者もたくさんいます。でも、彼らは笑顔でこう言うのです。

「子どもたちのためにこれだけのプレゼントを用意できるのは幸せだし、里親が『贈つてあげたい』と思ってくれるのも嬉しい。だから、僕たちは大変だけど幸せだよ。それより、里親のみなさんが、子どもたちが書いたカードを見てどう思っているのか心配なんだ。彼らは何を書いたらいいのかわからないし、クレヨンだって持っている子はあまりいない。机がないから地面で書く。どうしても素っ気ない仕上がりになってしまふんだよ。」

私たちが贈るカードやプレゼントは、このような誠実な彼らによって届けられています。受け取った子どもたちはほんとうに嬉しそうで、中にはプレゼントを抱きしめて一晩中離さない子もいるそうです。でも、その喜びや感謝の気持ちをスポンサーに伝えるのは、なかなか難しいです。私と同じ部屋に寝泊まりしていた研修生が言いました。

「あなた、里親をしているの？ うちはとても貧しいから、私の弟は違う家にもらわれて行ったの。家族バラバラでとても寂しいけど、私の弟にもうす



子どもたちの労働は夜明けから

スラム街の子どもたちは、朝早く起きて家族のために働いています。

インターンシップを体験しませんか？

インターンシップのご報告はいよいよ来月で最終回ですが、あなたもぜひ体験してみませんか？ こんなに素晴らしい時間が持てることは、人生でなかなかありません。

詳細は次ページを
ご確認ください！



インターンシップを体験しませんか？

2019年度秋のインターンシップもアメリカ・ニューヨークとフィリピン・マニラで開催されます
研修期間は4ヶ月間で、日程は右記の通りです。
ご希望の方には詳細をお知らせしますので、日本事務所まで資料をご請求ください。

ニューヨーク

日程：2019年8月13日(火)～12月19日(木)

フィリピン

日程：2019年8月25日(日)～12月17日(火)

お問い合わせ、資料請求は TEL03-3561-0174、メール metrojapan@mission.or.jp



ビル・ウィルソン師セミナー2019 東京日程決定

お待たせしました！

今年のセミナーの東京の日程と場所が決まりましたのでお知らせします。

その他の地域も決定次第、メトロのホームページやFacebookなどでお知らせしていきます。

詳細は、来月以降のメトロ・レポートでお知らせしていきます。

今から日程を確保し、お知り合いや教会の先生、兄弟姉妹もお誘いください。

日時：2019年7月6日(土)午後4時

2019年7月7日(日)午後3時30分

場所：玉川聖学院 谷口ホール

世田谷区奥沢 7-11-22

●東急東横線「自由が丘駅」正面出口より徒歩約6分

●東急大井町線「九品仏駅」より徒歩約3分

●東急バス 渋11 渋谷駅 ⇄ 田園調布駅

「自由が丘駅入口」バス停より徒歩5分

新年度の改革(Revolution)！

あなたがたも祈りによって、私たちを助けて協力してくださるでしょう。それは、多くの人々の祈りにより私たちに与えられた恵みについて、多くの人々が感謝をささげるようになるためです。

(コリント人への手紙 第二 1章11節)

愛する祈りの戦士である皆様へ、今、まさにこのみことばそのままをお伝えしたいのです。どんな時も祈りととりなしを通じて私たちと共にいてくださるあなたに感謝しています。私たちがキリストの体として活動を続けられるのも、私たちのために祈ってくださるあなたのお陰だからです。

改革(Revolution)

そう、誤記でも読み間違いでもありません。新年度の「抱負 (Resolution)」ではなく「改革(Revolution)」と書いてあります。メトロでは日々、戦いが続いている。私たちを通じてキリストの勝利がもたらされるためには、この敵に抵抗し続けるしかありません。

ビル師の著書『無敵の鎧を身にまとえ (The Teflon Rhino)』には、士師記20章を引用し、700人の戦士について次のように書かれています。「聖書には彼らは左利きと書かれていますが、もともとは右利きでした。利き手を負傷しながらも戦地に留まるために、その不利な境遇をも利用して最高の道を選び取ったのだ」。これこそ、まさに「改革」です。

神の国を実現する改革を目指して働きを続ける私たちには、あなたの力が必要です。祈りの戦士、同志としてのあなたが必要なのです。

新年度にあたって改革を行うべきことは…

- ◆ アフリカの地で私たちを待っている、まだ見ぬ4万人の子どもたちの人生のために
- ◆ 神様が大きな愛を注いでおられる世界中のかけがえのない子どもたちのために
- ◆ 働きを通じてすべての子どもの人生に変化をもたらそうと格闘しているメトロのために

私たちのために祈り、戦地へ向かおうとしてくださるあなたに、ビル師も、またニューヨークをはじめ世界各地でメトロの活動に携わっているスタッフやボランティアも、皆、心から感謝していることをお伝えしたいと思います。

いつもお祈りに覚えていただくことができるよう、2019年用の下記の写真をお届けします。この一年、必要に応じ、折に触れてお祈りいただけるよう、同じようなメモをご自分のパソコンのデスクトップに置いたり冷蔵庫に貼つたりして、目に触れるところに置いていただければ幸いです。

共にお祈りください

ビル師が以前、説教の中で、ウィンストン・チャーチルの言葉を引用したことがあります。「成功が最終形ではないし、失敗が致命傷ではない。肝心なのは、続ける勇気である。」メトロのスタッフやボランティアはキリストにあって勇敢な戦士であると私たちには信じています。あなたの熱い祈りととりなしのお陰で、私たちの力は精神的にも物理的にも増し加えられるのです。心から感謝します！ あなたも神の国のために戦うべく、時には士師記の傷ついた戦士のように、私たちの働きに加わる勇気をお持ちでしょうか。私たちと旅路を共にしてくださり、また、神による完全なる鎧を身にまとった戦士となって私たちを守ってください…そんな気持ちはおありでしょうか。世界中の大勢の子どもたちのためにも、あなたのお力をぜひお借りしたいと願っています。

共に祈り、期待しましょう！

恵みによって救われた、メトロを通じてのあなたの家族
メトロ・ワールド・チャイルド「祈りの輪」担当
クリス・ウォン



メトロのために祈ってください

日本事務所からの重要なお知らせとお願ひ

! スポンサー代金改定

メトロ本部では、世界中の物価の上昇に対応するため、子どものスポンサー代金を今年から変更しました。

日本事務所でも、スポンサーの方々には、先月のレポートにビル・ウィルソン師からの手紙で変更のご依頼をお知らせしました。たくさんの皆様が、スポンサー代金の引き上げをご了承くださいましたことを心から感謝申し上げます。

もし、まだ手紙をご覧いただいている場合は、ぜひ3月号に同封のビル先生からの手紙をご一読いただき、大変お手数ですが、日本事務所にまでご意向をお知らせくださいますようお願い申し上げます。

ホームページができました！

スポンサーの方がボランティアで、メトロジャパンのすばらしいホームページを作ってくださいました。引き続き更新やメンテナンスを行なながら、人材育生もしてくださっています。

ぜひ一度ご覧ください！

長年にわたり、きちんとしたホームページを作ることができず、一般的のブログで済ませていましたが、今回は、正式なホームページアドレスも取得して、内容を刷新。全体のデザインや構成、掲載する内容の選定や掲載方法まで、全て考えてくださいり、とても見やすくわかりやすく、スマホにも対応しています。驚きの人材を送ってくださった主に、心から感謝しています。

<https://metroworldchild.jp/>

日本セミナー

開催希望者募集中！

ビル・ウィルソン師が6月28日から7月7日の日程で来日予定です。

東京は7月6日・7日での開催が決まりましたが、教会、その他の地域での開催をご希望の場合は、日程を調整しなくてはなりませんので、できるだけ早くご連絡ください。

ニューヨーク・ブルックリンのスラム街で、無謀とも思える働きを始め、40年足らずで世界規模の働きにまで成長させた信仰の秘訣は、全ての人々の人生の歩みに大きなヒントを与えます。ぜひご自分の地域での開催の実現のために、ご協力ください。

日本事務所よりごあいさつ！

桜の満開の便りも聞かれ、学校や職場の新年度も始まって、春本番です。いかがお過ごしでしょうか。

新しい歩みを始めた方、新しい場所での生活を始めた方もいらっしゃることでしょう。

あなたがどこにいて、何をしていようと、救い主、イエス・キリストが全ての行く道であなたを祝福し、恵みを与えてくださいます。クリスチャンならではの思い切り大胆な歩みをしていただきたいと願っています。

日本のメトロは、スポンサーの方のご協力で、新年度を迎えるにふさわしい、立派なホームページができるが、本当に喜んでいます。皆様もぜひご覧ください。

皆様のご支援とお祈りにいつも感謝しています。皆様にとりましても、勝利を体験するイースターとなりますようお祈り申し上げます。



日本事務所代表 万代栄嗣(まんだい えいじ)

メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座 4-5-1
教文館 6階 TFC内

電話 03-3561-0174

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、同封の郵便振替用紙をご利用いただかずか、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン